

平成26年度 第5期

事業報告書

自 平成26年4月1日

至 平成27年3月31日

公益財団法人 黒住医学研究振興財団

黒住医学研究振興財団は、平成22年7月1日より公益財団法人としてスタートし第5期目の本年度は、定款に従い下記の各事業を遂行した。

本年度は、理事会を、4月11日、6月2日、6月27日、9月26日、1月9日、1月29日、2月19日、3月13日の計8回、評議員会を、4月25日、6月16日、3月16日の計3回開催した。また、各選考委員会は、9月19日、9月26日、2月19日、3月13日の計4回開催した。

各理事会・評議員会における主要な議題と決議は次の通りである。

【理事会】

第30回理事会（4月11日）書面表決 理事数12名 監事数2名
平成25年度事業報告(案)・平成25年度決算報告(案)の承認の件

第31回理事会（6月2日）書面表決 理事数12名 監事数2名
定款の条文一部追加・変更（案）承認の件

第32回理事会（6月27日）出席者 理事9名 監事2名
1. 第50回小島三郎記念文化賞の予備選考
2. 第50回小島三郎記念文化賞候補者の業績説明担当委員の決定
3. 第22回研究助成金に係る分野別審査委員及び選考委員の確認

第33回理事会（9月26日）出席者 理事10名 監事2名
1. 第50回小島三郎記念文化賞受賞者の決定
2. 第22回研究助成金受贈者の決定
3. 平成26年度、寄附金及び賛助会員会費（栄研化学より）の基本財産組み入れについて

第34回理事会（1月9日）出席者 理事8名 監事2名
1. 平成27年度における会議及び事業計画の策定
2. 第50回小島三郎記念技術賞・第33回福見秀雄賞贈呈式における特別講演者の選定
3. 平成27年度・平成28年度理事、選考委員改選の件
4. 内閣府よりの立入検査・報告要求について
・将来の事業の拡大の一環として、平成27年度より研究助成金の総額を100万円増額し、1,300万円とすることで理事会の承認を得た。

第35回理事会（1月29日）書面表決 理事数11名 監事数2名
「貴法人の運営組織及び事業活動の状況に関する報告の提出について」
（平成26年12月3日付（府益第1036号））の内閣府への報告事項承認の件

第36回理事会（2月19日）出席者 理事7名 監事2名
1. 第34回福見秀雄賞受賞者の決定
2. 平成27年度・平成28年度各選考委員の選任・承認及び小島三郎記念文化賞選考委員、野本明男先生の後任の件
3. 第50回小島三郎記念技術賞選考委員の出席状況
4. 第50回小島三郎記念技術賞の予備選考
5. 平成27年度事業計画（案）・平成27年度予算（案）の承認の件
6. 賛助会員規程（改正案）承認の件
7. 謝金規程（改正案）承認の件
8. 評議員会開催の件

第37回理事会（3月13日）出席者 理事9名 監事2名

1. 第50回小島三郎記念技術賞受賞者の決定
2. 理事・監事候補者推薦の件
3. 第39回理事会（代表理事及び執行理事選任等）日程について

【評議員会】

第10回評議員会（4月25日）出席者 評議員8名 理事3名 監事2名

1. 平成25年度事業報告(案)・平成25年度決算報告(案)の承認
2. 評議員選任の件

第11回評議員会（6月16日）書面表決 評議員数13名

定款の条文一部追加・変更（案）承認の件

第12回評議員会（3月16日）書面表決 評議員数13名

平成27年度事業計画（案）・平成27年度予算（案）の承認の件

【各選考委員会の開催】

第22回研究助成金選考委員会（9月19日）出席選考委員7名

第22回研究助成金贈呈候補者の選考

第50回小島三郎記念文化賞選考委員会（9月26日）出席選考委員18名

第50回小島三郎記念文化賞贈呈候補者の選考・決定

第34回福見秀雄賞選考委員会（2月19日）出席選考委員12名

第34回福見秀雄賞贈呈候補者の決定

第50回小島三郎記念技術賞選考委員会（3月13日）出席選考委員25名

第50回小島三郎記念技術賞贈呈候補者の決定

各事業の詳細は次の通りである。

I. 研究助成事業

本財団定款第4条第1項第1号に規定される研究助成事業は、臨床検査、衛生検査及びこれらに係る基礎医学に関する調査ならびに研究の領域でより優れた学術研究・業績テーマに対して助成するものである。

研究助成の対象は、医学関連の大学、教育機関、研究所、及び医療機関等において、当該事業の目的に従事している者から応募申請を募り、申請内容を各専門分野の審査委員が採点した後、選考委員会で慎重に審議して研究助成の対象者を決定するものである。

当該事業は、平成5年度から開始しており、本年度の研究助成金選考委員会は、第22回目に当たり9月19日に開催し9月26日行なわれた理事会において第50回小島三郎記念文化賞受賞者とともに研究助成金の受贈者と金額を決定した。申請件数は153件で、そのうち13件（13名）に研究助成金を贈呈することとした。

なお、贈呈式は平成26年10月31日東京會館にて行なわれた。

対象者の氏名、研究課題は次のとおりである。

【研究助成金の受贈者 第22回】

1. 石井 敦士

（所属機関）福岡大学病院小児科 助手

（研究課題）「乳幼児期発症の難治性有熱時てんかん患者 300 名に対して、次世代シーケンサーを利用した Target capture 法により、てんかん関連 400 遺伝子の変異保有率と変異遺伝子による表現型の検証」

（助成金額）90 万円

2. ^{いわたに そうた}岩谷 壮太
 (所属機関) 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野 博士課程
 (研究課題) 「ビリルビン誘導蛍光タンパク質(UnaG)を用いた
 新たな血清ビリルビン測定法の開発」
 (助成金額) 90 万円
3. ^{うの なおき}宇野 直輝
 (所属機関) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・診断学 (臨床検査医学)
 助教 医学博士
 (研究課題) 「成人 T 細胞白血病に対する新たなフローサイトメトリー検査法の開発」
 (助成金額) 90 万円
4. ^{おおこうど みつあき}大河戸 光章
 (所属機関) 杏林大学保健学部病理学研究室 講師 保健学博士
 (研究課題) 「肛門管上皮内腫瘍における細胞診判定基準に関する研究」
 (助成金額) 100 万円
5. ^{おかだ さとし}岡田 賢
 (所属機関) 広島大学病院小児科 助教
 (研究課題) 「顆粒球抽出抗原を利用した新規抗ヒト好中球抗体測定法の開発」
 (助成金額) 90 万円
6. ^{かげやま ゆうこ}影山 祐子
 (所属機関) 東京大学医学部附属病院検査部 臨床検査技師 保健学博士
 (研究課題) 「スフィンゴシン 1 リン酸作用修飾による
 門脈圧亢進症治療の適応症例の解明」
 (助成金額) 90 万円
7. ^{さいとう りょういち}齋藤 良一
 (所属機関) 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 准教授 保健学博士
 (研究課題) 「*Clostridium difficile* の分子疫学とその感染対策への応用に関する研究」
 (助成金額) 100 万円
8. ^{じくぞの ともお}軸菌 智雄
 (所属機関) 小山記念病院甲状腺科 部長 医学博士
 (研究課題) 「穿刺吸引細胞診検体のマイクロ RNA 解析による
 甲状腺濾胞癌診断技術の開発」
 (助成金額) 90 万円
9. ^{しもかりや ゆうじ}下仮屋 雄二
 (所属機関) 三重大学医学部附属病院中央検査部 副臨床検査技師長
 (研究課題) 「多項目自動血球分析装置による幼若顆粒球比率(IG%)、
 幼若顆粒球数(IG #)、幼若血小板比率(IPF%)測定 of 臨床的有用性の検討」
 (助成金額) 90 万円
10. ^{たなか みずこ}田中 瑞子
 (所属機関) 福島県立医科大学基礎病理学講座 助教 医学博士
 (研究課題) 「原発性ネフローゼ症候群の新規診断マーカーの確立」
 (助成金額) 90 万円

11. ^{なかもと のぶひろ} 中本 伸宏
 (所属機関) 慶應義塾大学医学部内科学教室 (消化器) 助教 医学博士
 (研究課題) 「新規バイオマーカーCCR9を用いた重症急性肝炎の劇症化予測」
 (助成金額) 90万円
12. ^{にしうら ひろし} 西浦 博
 (所属機関) 東京大学大学院医学系研究科国際社会医学講座 准教授 保健学博士
 (研究課題) 「ヘマグルチニン抑制試験の抗体価による人口レベルの
 インフルエンザ感受性分布と感染リスクの推定」
 (助成金額) 90万円
13. ^{ひだ ゆきお} 飛田 征男
 (所属機関) 福井大学医学部附属病院検査部 主任臨床検査技師 医学博士
 (研究課題) 「遺伝子学的手法を用いた *C.pneumoniae* と *C.psittaci* の鑑別法の開発と
 クラミジア肺炎における臨床応用」
 (助成金額) 100万円

計 13名 研究助成金総額 1,200万円

II. 顕彰事業

本財団の定款第4条第1項第2号及び第3号に規定されている顕彰事業は、臨床検査、衛生検査及びこれらに係る基礎医学に関する優れた研究成果に対する顕彰である「小島三郎記念文化賞」と臨床検査技師及び衛生検査技師等において優れた検査方法、術式の開発に成果を収めた者と当該分野における人材の育成に優れた成果を収めた者に対する顕彰である「小島三郎記念技術賞」と「福見秀雄賞」があり、各賞とも毎年1回贈呈している。

①. 【小島三郎記念文化賞】第50回の贈呈

小島三郎記念文化賞は、病原微生物学、感染症学、公衆衛生学その他これらに関連した領域において、学問的に顕著な業績で、しかも我が国の文化に貢献したと思われる研究に対して、贈呈するものである。

同賞の候補対象者については、大学の衛生学、公衆衛生学、微生物学、寄生虫学、感染症学、病理学、免疫血清学の教授、各都道府県衛生部長、衛生研究所長、小島三郎記念文化賞受賞者等から該当者の推薦を得た候補者について、推薦理由、研究歴、発表論文等を選考委員会で各分野の審査委員が各候補者の業績コメントを述べ、慎重に審査した上で、優秀な業績のあった者に贈呈を決定するものである。

当該事業は、昭和40年から開始しており、今年度の小島三郎記念文化賞選考委員会は、第50回に当たり9月26日に開催し同日行なわれた理事会において受賞者を決定した。

平成26年度における第50回小島三郎記念文化賞の候補対象者8名のうちから1名を決定したもので、この贈呈者の氏名、所属及び業績は次のとおりである。

なお、同賞の贈呈式は平成26年10月31日、東京會館にて行なわれた。

(氏名) (所属機関)

^{なかたに ひろき}
中谷 比呂樹

世界保健機関 (WHO) 本部 事務局長補 医学博士

業績の題目

「不健康と貧困の悪循環を断つための

地球規模での公衆衛生学的アプローチ」

②. 【小島三郎記念技術賞】第49回の贈呈

小島三郎記念技術賞は、臨床検査ならびに衛生検査領域において、優れた検査方法、術式の考案改良を行い、また、検査技術の普及発展に功績のあった実務者（技師）に贈呈するものである。

贈呈する対象は、各都道府県衛生部長、衛生研究所長、各都道府県臨床衛生検査技師会長、検疫所長、大学病院中検部長、小島三郎記念技術賞受賞者等から該当者の推薦を得た候補者について、推薦理由、研究歴、ならびに論文等を各専門分野の審査委員が採点した後、選考委員会で慎重に審査した上で、優秀な業績のあった者に贈呈を決定するものである。

平成26年度における第49回小島三郎記念技術賞の候補対象者20名のうちから贈呈者5名を決定したもので、この贈呈者の氏名、所属及び業績は次の通りである。

なお、同賞の贈呈式は平成26年5月30日、東京會館にて行われた。

(氏名) (所属機関)

うへだ かずひと

上田 一仁 市立芦屋病院臨床検査科 技師長 保健学博士

業績の題目 「免疫学的異常反応の解析、
並びに自己抗体を標的とした癌のプロテオーム解析」

しのざきみのる

篠崎 稔 東邦大学医療センター大森病院病理部 検査技師長

業績の題目 「深在性真菌症の病理診断を目的とした
遺伝子補助診断法の開発とその応用に関する研究」

のざきつかさ

野崎 司 東海大学医学部付属病院診療技術部臨床検査技術科 科長補佐

業績の題目 「尿沈渣検査の研究および尿沈渣検査・寄生虫検査技術の教育と
後進の指導育成」

まつもとともこ

松本 智子 奈良県立医科大学小児科学教室教室職員 博士研究員 医学博士

業績の題目 「凝固機能評価法の確立と
後天性凝固因子インヒビターにおける抑制メカニズムの解明」

りえつこ

李 悦子 徳島大学病院輸血・細胞治療部 主任臨床検査技師

業績の題目 「フローサイトメトリーを用いた血液型亜型の抗原量解析と
新規HLAアレルの発見」

③. 【福見秀雄賞】第33回の贈呈

福見秀雄賞は、臨床検査ならびに衛生検査領域に半生を捧げ、技術の開発、向上に努力し、かつ後進の指導育成に貢献あった者に贈呈するものである。

贈呈する対象は、各都道府県衛生部長、衛生研究所長、各都道府県臨床衛生検査技師会長、検疫所長、大学病院中検部長、小島三郎記念技術賞受賞者、福見秀雄賞受賞者等から該当者の推薦を得た候補者について、推薦理由、職歴、ならびに論文等の概略を確認し選考委員会で慎重に審査した上で、優秀な業績のあった者に贈呈を決定するものである。

平成26年度における第33回福見秀雄賞の候補対象者15名のうちから贈呈者5名を決定したもので、この贈呈者の氏名、所属は次のとおりである。なお、同賞の贈呈式は平成26年5月30日、小島三郎記念技術賞の贈呈と併せて東京會館にて行われた。

(氏名) (所属機関)

おぬま としみつ
小沼 利光

東京都済生会向島病院 院長補佐

しもむら ひろじ
下村 弘治

文京学院大学大学院保健医療科学研究科 教授 医学博士

ながさこ てつろう
長迫 哲朗

福岡市立病院機構福岡市民病院検査部 前 技師長

やまもと さだあき
山本 貞明

医療法人社団睦心会あさなぎ病院検査室 臨床検査技師

わかばやし まりこ
若林 真理子

前 公益財団法人新潟県保健衛生センター 事務局次長 臨床検査技師

④. 【小島三郎記念技術賞】第50回の選考および決定

小島三郎記念技術賞は、臨床検査ならびに衛生検査領域において、優れた検査方法、術式の考案改良を行い、また、検査技術の普及発展に功績のあった実務者（技師）に贈呈するものである。

贈呈する対象は、各都道府県衛生部長、衛生研究所長、各都道府県臨床衛生検査技師会長、検疫所長、大学病院中検部長、小島三郎記念技術賞受賞者等から該当者の推薦を得た候補者について、推薦理由、研究歴、ならびに論文等を各専門分野の審査委員が採点した後、選考委員会で慎重に審査した上で、優秀な業績のあった者に贈呈を決定するものである。

当該事業は、昭和41年から開始しており、平成27年度における第50回小島三郎記念技術賞の推薦の受付は、平成26年12月より平成27年2月10日までを行い、その後同選考委員会を3月13日に開催し、同日行なわれた理事会において候補対象者26名のうちから贈呈者5名を決定した。

なお、同賞の贈呈式は平成27年6月5日、銀行倶楽部にて開催の予定である。

(氏名) (所属機関)

すずき まきひろ
鈴木 匡弘

愛知県衛生研究所 主任研究員 農学博士

業績の題目 「迅速な遺伝子型比較のための分子疫学解析法

(PCR-based ORF typing 法 : POT 法) の開発」

せいみや まさのり
清宮 正徳

千葉大学医学部附属病院検査部 副臨床検査技師長 医学博士

業績の題目 「臨床検査における新規測定法の開発ならびに問題点の解明」

たかはし おさむ
高橋 修

市川市リハビリテーション病院臨床検査科 科長

業績の題目 「臨床検査技師が関わる臨床神経生理部門における研究と教育」

つるだ かずと
鶴田 一人

長崎大学病院検査部 副技師長

業績の題目 「造血器腫瘍の病態解析と診断法確立」

やました かずや
山下 和也

北里大学病院病院病理部 技師長 医学博士

業績の題目 「分子病理学的検査技術の日常病理検査業務への導入とその臨床応用」

⑤. 【福見秀雄賞】第34回の選考および決定

福見秀雄賞は、臨床検査ならびに衛生検査領域に半生を捧げ、技術の開発、向上に努力し、かつ後進の指導育成に貢献あった者に贈呈するものである。

贈呈する対象は、各都道府県衛生部長、衛生研究所長、各都道府県臨床衛生検査技師会長、検疫所長、大学病院中検部長、小島三郎記念技術賞受賞者、福見秀雄賞受賞者等から該当者の推薦を得た候補者について、推薦理由、職歴、ならびに論文等の概略を確認し選考委員会で慎重に審査した上で、優秀な業績のあった者に贈呈を決定するものである。

当該事業は、昭和 55 年から開始しており、平成 27 年度における第 34 回福見秀雄賞の推薦の受付は、平成 26 年 12 月より平成 27 年 2 月 10 日まで行い、その後同選考委員会を 2 月 19 日に開催し同日行なわれた理事会において候補対象者 14 名のうちから贈呈者 4 名を決定した。なお、同賞の贈呈式は平成 27 年 6 月 5 日、小島三郎記念技術賞の贈呈と併せて行なう予定である。

(氏 名)

(所 属 機 関)

さの かずみつ
佐野 和三 日本大学病院臨床検査部 技術長

しばた ひろし
柴田 宏 シスメックス株式会社学術本部学術部
前 島根大学医学部附属病院検査部 臨床検査技師長 医学博士

とおだ えいいち
遠田 栄一 社会福祉法人三井記念病院中央検査部 部長

みむら くひろ
三村 邦裕 千葉科学大学危機管理学部医療危機管理学科 教授 医学博士

Ⅲ. 学術講演会

平成 26 年度は、5 月 30 日に東京會館にて「第 49 回小島三郎記念技術賞ならびに第 33 回福見秀雄賞」贈呈式の特別講演として、JT 生命誌研究館 顧問で NPO 法人オール・アウト・サイエンス・ジャパン(AASJ) 代表理事の西川 伸一先生に「21 世紀の医学を覗いてみる」と題してご講演いただいた。

Ⅳ. 公益財団法人登記後の対応

- ①事業報告書等に係る提出書（1. 財産目録、2. 役員等名簿、3. 理事、監事及び評議員に対する報酬等の支給の基準を記載した書類、4. 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 129 条第 1 項(同法第 199 条において準用する場合を含む。)に規定する計算書類等、5. 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第 28 条第 1 項第 2 号に掲げる書類、6. 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第 28 条第 2 号及び第 3 号に掲げる書類、7. 滞納処分に係る国税及び地方税の納税証明書）を平成 26 年 6 月 30 日に内閣府へ提出した。
- ②事業計画書等に係る提出書（1. 事業計画書、2. 収支予算書、3. 資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類、4. 1 から 3 までに掲げる書類について理事会、評議員会の承認を受けたことを証する書類）を平成 27 年 3 月 31 日に内閣府へ提出した。
- ③公益財団法人となり 3 年以上経過した法人を対象に、内閣府よりの立入検査が平成 26 年 12 月 16 日に実施された。本財団の設立経緯から事業概要についての説明をした後、「公益性をいかに担保しているか」と「収支相償になっているか」の観点から財団の活動について検査が入った。各公益目的事業毎に細かな質問がなされた。
- ④内閣府より報告要求があり、特に収支相償を平成 26 年度決算で満たすようにしてほしいとの指摘があった。具体的方法として、①栄研化学からの寄附金及び賛助会員会費の 2,000 万円を指定正味財産として基本財産に組み入れる。②平成 26 年度決算時に「特定費用準備資金」（研究助成・顕彰事業積立基金）として約 3,000 万円を積立てて、平成 27 年度より毎年約 1,000 万円を取り崩していく。以上 2 点について、理事会、評議員会の承認を得た。

以上